

## 4. 専門分野Ⅱ

## 1) 専門分野Ⅱ構築の考え方

専門分野Ⅱでは、基礎分野・専門基礎分野をもとに、専門分野Ⅰで学んだ看護の専門的な知識・技術の基礎を踏まえて、人間のライフステージや看護実践の場の特徴に応じた看護実践が行えるような教育内容とした。さらに対象の個別性に応じた看護展開ができるようにアセスメント能力や、問題解決能力が重点的に養えるようなカリキュラム内容とし、統合分野の学習に発展できるように位置づけた。

教育内容としては、人間の成長・発達段階とライフステージからその対象の特徴と看護について「小児看護学」4単位、「成人看護学」6単位、「老年看護学」4単位を設定した。さらに各看護学に共通する人間の心の発達と精神の健康の保持増進・精神障害の看護について「精神看護学」4単位、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる「母性看護学」4単位を設定し学習が統合できるように考えた。

専門分野の科目の内訳は、各看護学の領域別概論と方法論で構築した。概論では、単に概論だけでなく、各領域における看護の対象の特性と看護の役割・機能および保健の動向と政策を柱とし、各領域の特有な基礎的知識・理論を学習する。方法論では、健康障害のある人々に対する看護の方法と、各領域の臨地場面に必要とされる知識・技術について学習することとした。また、学習した内容を看護実践の場で活用し、統合する能力を養うためにそれぞれの科目で臨地実習を行うこととした。

## 2) 専門分野Ⅱの構成

	領域名	単位数	科目名
専門分野Ⅱ  38単位 (1320時間)	成人看護学	12単位 (450時間)	成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学方法論Ⅴ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ
	老年看護学	8単位 (285時間)	老年看護学概論Ⅰ 老年看護学概論Ⅱ 老年看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ
	小児看護学	6単位 (195時間)	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
	母性看護学	6単位 (195時間)	母性看護学概論Ⅰ 母性看護学概論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学実習
	精神看護学	6単位 (195時間)	精神看護学概論Ⅰ 精神看護学概論Ⅱ 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学実習

#### 4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

### (1) 成人看護学

## 成人看護学構築の考え方

成人期は、ライフサイクル上、人生の重要な部分を占める時期であり、社会的に大きな役割と責任を持つ年代である。また、親から独立し、家庭を築き、子どもの育成や親世代の介護の役割も担っている。

対象者の個別性を理解するためには、社会的自立を求められながら生活し、健康を阻害する要因が増えるこの時期の特性を理解する必要がある。現代社会では様々なストレスが交錯し、健康に大きな影響を及ぼす。社会的に重要な責任を担う成人期においては、健康障害が発生しても生命に直接的にかかわらない限り、社会的責任を優先することで検査・治療に結びつかない場合もある。疾患も完治するものばかりではなく、生活習慣病のようにその病気と上手く付き合うことにより、実質的に健康な状態を維持し生活することができるようになってきている。そして国民の健康に対するニーズは、障害を持っても生活の質を向上させるものへと変化してきている。このような状況の中で変革してきたわが国の健康政策の動向を理解していく必要がある。更に、現代社会は情報が氾濫しており、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力も求められている。

こうした背景から、成人看護においては予防や健康政策、健康教育、セルフマネジメント、リハビリテーションといった視点が重要となっている。さらに、健康障害の予防、回復・改善、悪化の防止、また、障害を持ちながらもクオリティ・オブ・ライフを高くその人らしい生活を送るための看護援助について必要な知識・技術・態度を身につける必要がある。そのためには、看護師は、人間を尊重する精神を基盤として、対象の疾患のみではなく、社会的役割、家庭内における役割、対象の家族に対するサポートなどについても目を向け、思いやりの態度を持って対象及びその家族へ援助する能力を持たなければならない。

以上の観点から、成人看護学は、成人期にある人の特徴とそれらの人が抱える健康問題を理解し、必要な看護の概念と倫理的態度について学ぶ成人看護学概論、対象の健康問題および機能障害の理解と援助方法を学ぶ成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、看護過程を学ぶ成人看護学方法論Ⅴで構成する。

成人看護学概論では、対象の理解、成人各期の健康問題、成人保健の知識を得るとともに、成人期にある対象への看護援助に必要な概念を理解し、生命の尊厳と相手に対する思いやりを含む倫理的態度について学ぶ。各方法論においては、基礎看護学を基盤として、方法論Ⅰでは障害の経過に沿った成人の看護、方法論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、器官系統別に障害をもつ成人の看護を学ぶ。方法論Ⅴでは、それまでの知識を統合し健康問題に対する援助方法を考えるために、事例を用いた成人期にある対象の看護過程を学ぶ組み立てとした。成人の特徴に基づいた看護を学ぶとともに、疾病・障害についての看護の基本についても学習する。

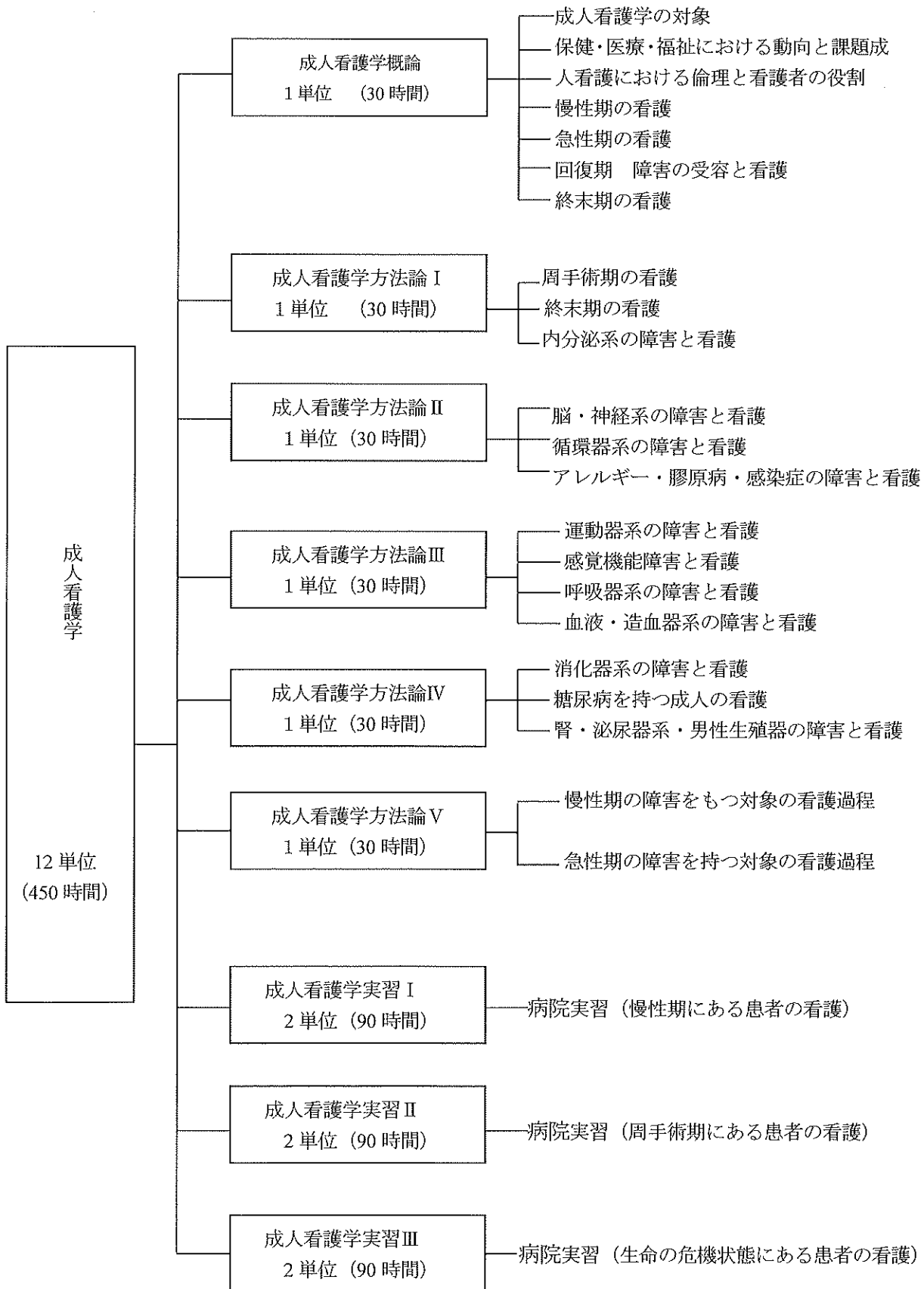
### 成人看護学の目的

成人期にある人々の発達段階における特徴とその課題、健康上の欲求を理解し、健康に影響する様々な因子を知り、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護実践能力が修得できる。

### 成人看護学の目標

1. 社会環境と影響しあいながら生活している、成人期にある人々の発達段階における特徴と課題および健康上の欲求が理解できる。
2. 成人期にある人々の健康に影響する諸因子を理解し、成人保健の必要性が理解できる。
3. 成人保健の動向を知り、健康な生活を維持・増進するための看護の役割が理解できる。
4. 成人期における疾病とその経過をふまえ、健康障害に伴う諸問題を知り、健康状態に応じた看護実践の必要性が理解できる。
5. 健康が障害された状態にある成人期の人々を全人的に理解し、個人に応じた看護問題に対する解決能力を身につけ、実践に応用できる知識・技術・態度が修得できる。
6. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割、機能を理解し、連携・協働できる能力を身につける。

## 成人看護学の構成と科目のねらい



授業科目	成人看護学概論	講師名	境 敏一	単位 1 単位	時期
				時間 30 時間	
科目目標	1. 成人の特徴を理解する。 2. 成人期の成長・発達と課題を理解する。 3. ヘルスプロモーションの施策と対応について理解する。 4. 成人期の健康問題を理解する。 5. 成人看護の役割を理解する				
単元	回数	授業内容			方法
成人の特徴と看護	1	1. ガイダンス 2. 成人期のとらえ方			講義
	2	1. 成人看護の目的と意義 2. 成人各期の発達と健康 レポート①提出			講義 演習
健康障害の要因と健康管理	3	1. 成人の生活状況 2. 成人の健康障害			講義
	4	1. 健康に影響を及ぼす要因 2. 生活習慣病の要因と特性 レポート②提出 1)生活習慣病と生活様式(ライフスタイル)			講義 演習
成人の健康づくりと健康管理	5	1. 保健・医療・福祉の動向 1)保健・医療・福祉の動向 2)成人保健関係の法規と保健指導の実際			講義
	6	1. 医療の法規等 1)健康づくり対策 2)がん対策			講義
成人看護アプローチの基本	7	1. 成人への看護 1)成人教育学 2)集団の特性			講義
	8	3)チームアプローチ 4)看護におけるマネジメント			講義
	9	5)倫理的判断 6)意思決定支援 7)家族支援			講義
健康レベルに対応した看護	10	1. ヘルスプロモーション 2. 生命の危機的状態と患者の看護 1)手術療法 2)化学療法 3)放射線療法と看護			講義
	11	3. 慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 4. 障害がある人の生活とリハビリテーション			講義
	12	1. 終末期にある患者の看護 1)終末期とは 2)死の定義 3)対象と家族への看護			講義
成人の健康生活を促すための看護技術	13	1. 学習者である患者への看護技術 1)エンパワメント・エデュケーション レポート提出③			講義 演習
	14	2. 治療過程にある患者への看護技術 3. 症状マネジメントにおける看護技術 4. 退院支援の看護技術			講義
評価	15	筆記試験 70%、レポート 30% 合計 100 点			筆記試験
テキスト等	小松 浩子他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論, 医学書院, 2018. 財団法人厚生統計協会:国民衛生の動向, 2019 8 月				



授業科目	成人看護学方法論 I	講師名	境 敏一 鈴木恵子 山崎敦子	単位 1 単位	時期 2年次前期
				時間 30 時間	
科目目標 1. 周手術期の看護について理解できる。 2. ボディイメージの変化とその受容のための看護が理解できる。 3. 生命の危機状態にある成人の特徴的な看護について理解できる。					
単元	回数	授業内容		方法	担当
周手術期の看護	1	1. 周手術期看護概論		講義	境
	2	2. 手術前の検査と看護		講義 ビデオ	
		3. 手術前処置と手術室への引継ぎ			
	3	4. 手術中患者の看護		講義 ビデオ	
	4	5. 手術後の回復促進のための看護			
	5	6. 手術と生体反応、術後合併症の発生機序		講義	
	6	7. 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応		講義	
7	8. 周手術期総合演習		演習		
評価	50分	筆記試験50点			
内分泌系に障害をもつ成人の看護	8	1. 内分泌疾患の検査を受ける患者の看護		講義	鈴木
	9	2. 主な症状と看護			
		3. 検査・処置・治療の看護			
10	4. 内分泌疾患の看護				
評価	15分	筆記試験 20 点			
終末期にある対象の看護	11	1. 緩和ケアの歴史と現状		講義	山崎
		2. チーム医療			
	12	3. 緩和ケアにおける倫理的課題			
		4. コミュニケーションと意思決定支援			
13	1. 身体的ケア				
	2. トータルペイン				
14	3. 薬物療法と看護				
	4. 事例検討		演習		
評価	25分	筆記試験 30 点			
テキスト等 渡邊五朗他:新体系看護学全書 別巻1, 臨床外科看護学1, メジカルフレンド社 本庄恵子:写真でわかる臨床看護技術2アドバンス, インターメディカ 黒江ゆり子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学6 内分泌・代謝, 医学書院 恒藤 暁他:系統看護学講座 別巻6, 緩和ケア 医学書院					

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	講師名	和気実奈子	単位 1 単位	時期 2年次前期	
			佐藤代枝 佐藤優子 星野美奈	時間 30 時間		
科目目標 1. 脳神経機能障害をもつ成人の看護が理解できる。 2. 循環機能障害をもつ成人の看護が理解できる。 3. アレルギー・膠原病をもつ成人の看護が理解できる。 4. 感染症をもつ成人の看護が理解できる。						
単元	回数	授業内容			方法	担当
脳神経系に障害をもつ成人の看護	1	1. 脳神経機能の障害と看護 1)意識障害 2)言語障害 3)運動失調 4)嚥下障害			講義 演習	和気
	2	5)排尿障害 6)呼吸障害 7)頭蓋内圧亢進				
	3	2. 治療・処置を受ける患者の看護				
	4	3.疾患を持つ対象の看護 1)クモ膜下出血患者の看護			講義	
	5	2)脳梗塞患者の看護 3)多発性硬化症患者の看護				
評価	30分	筆記試験 35点				
循環器系に障害をもつ成人の看護	6	1.循環器系の障害に伴う症状と看護 1)胸痛 2)動機 3)浮腫 4)呼吸困難 5)チアノーゼ 6)失神 7)四肢の疼痛			講義	佐藤
	7	2.検査を受ける患者の看護 1)心臓カテーテル検査 2)心電図検査 3)血行動態 モニタリング 4)動脈血ガス分析				
	8	3.治療を受ける患者の看護 1)薬物療法 2)カテーテル治療 3)CABGと弁置換 4)補助循環装置の装着			講義	
	9	4 疾患を持つ対象の看護 1)虚血性心疾患患者の看護と心臓リハビリテーション				
	10	2)心不全患者 3)不整脈患者				
評価	30分	筆記試験 35点				
アレルギー・膠原病をもつ成人の看護	11	1. アレルギー反応とは			講義	佐藤
	12	2. アレルギー疾患と看護 3. 膠原病の理解と看護				
評価	15分	筆記試験 15点				
感染症をもつ成人の看護	13	1. 感染症の理解 2. 感染症の症状に対する看護 3. 感染症の検査・治療における看護			講義	星野
	14	4. 疾患をもつ患者の看護 1)HIV・エイズ 2)敗血症				
評価	15分	筆記試験 15点				
テキスト等 竹村信彦他著:成人看護学7 脳・神経 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 医学書院 吉田俊子他著:成人看護学3 循環器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 医学書院 味澤 篤他著:成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 医学書院						

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	講師名	境敏一 安納秀一 川島美佳 内糸舞弥 町田恵理子 神山奈津江	単位	1 単位	時期 2年次前期
				時間	30 時間	
科目目標 1. 運動器に障害をもつ成人の看護について理解できる。 2. 感覚器に障害をもつ成人の看護について理解できる。 3. 呼吸器に障害をもつ成人の看護について理解できる。 4. 血液・造血器に障害をもつ成人の看護が理解できる						
単元	回数	授業内容		方法	担当	
運動器系に障害を持つ成人の看護	1	1. 看護援助のためのおもな知識と技術		講義	川島	
	2	2. 症状に対する看護 1)疼痛、循環・神経障害 2) 骨折(外傷)				
	3	3. 検査・診断を受ける患者の看護 4. 保存療法、手術を受ける患者の看護 1)牽引療法 2)ギプス、シーネ装着 3) 装具		講義	内糸	
	4	5. 疾患をもつ対象の看護 1)大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 2)腰痛患者の看護				
	5	3)変形性股関節症の看護 4) 脊髄損傷患者の看護				
評価	25 分	筆記試験 30 点				
感覚器系に障害を持つ成人の看護	6	1. 視覚障害を持つ患者の看護		講義	境	
	7	2. 聴覚・臭覚障害をもつ患者の看護				
評価	15 分	筆記試験 15 点				
呼吸器系に障害をもつ成人の看護	8	1. 呼吸器症状を持つ患者の看護 1)症状に対する看護		講義 演習	安納	
	9	2)検査を受ける患者の看護 3)治療・処置を受ける患者の看護 吸入療法、酸素療法、人工呼吸器装着、気管切開 胸腔ドレナージ				
	10	2. 疾患をもつ患者の看護 1)肺結核患者の看護 2)慢性閉塞性肺疾患患者の看護				
	11	3)肺がん患者の看護 4)自然気胸				
	12	3. 演習:呼吸器系の障害のある患者の看護 吸引、酸素療法、排痰法(体位ドレナージ)				
評価	25 分	筆記試験 30 点				
血液・造血器系に障害をもつ成人の看護	13	1. 血液・造血器系に障害を持つ患者のアセスメント 1)主要症状を有する患者の看護 (1)貧血 (2)出血傾向 (3)易感染状態 2) 検査を受ける患者の看護		講義	神山	
	14	2. 疾患をもつ対象の看護 1)白血病 2)悪性リンパ腫				
評価	15 分	筆記試験 15 点				
乳房に障害をもつ成人の看護	15	1. 乳房のアセスメント 2. 乳がんの症状・検査・治療と看護		講義	町田	
評価	10 分	筆記試験 10 点				
テキスト等 織田弘美他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学10 運動器, 医学書院 岡山裕子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学12 皮膚, 医学書院 大鹿哲郎他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学13 眼, 医学書院 小松浩子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学14 耳鼻咽喉, 医学書院 池田正他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学9 女性生殖器, 医学書院 飯野京子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学 4 血液・造血器, 医学書院						

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	講師名	境敏一	単位 1単位	時期 2年次前期
			佐藤允彦	時間 30時間	
科目目標 1. 消化器に障害を持つ成人の看護について理解できる。 2. 糖尿病を持つ成人の看護について理解できる。 3. 腎・泌尿器に障害を持つ成人の看護について理解できる。					
単元	回数	授業内容		方法	担当
消化器系に障害をもつ成人の看護	1	1. 消化器系の主な症状と看護		講義 演習	境
	2	2. 消化器系の検査・処置・治療と看護			
	3	3. 消化器系の疾患をもつ患者の看護 1) 食道疾患と看護			
	4	2) 胃・十二指腸疾患と看護			
	5	3) 腸疾患と看護			
	6	4) 肝・胆・膵疾患と看護			
評価	40分	筆記試験 50点			
糖尿病を持つ成人の看護	7	1. 糖尿病や高脂血症の要因と生活習慣 1) データの見方 2) 肥満度の測定		講義	境
	8	2. 血糖コントロールの治療 1) 食事療法と血糖コントロール 2) エンパワーメントの援助 3. 運動療法と看護			
	9	4. フットケアの必要性和実際の方法 5. インスリン注射の手技、スライディングスケール法			
	10	6. 急性合併症時の看護 1) 低血糖発作 2) 高血糖 7. 慢性高血糖の持続による病気の進行と看護			
評価	25分	筆記試験 25点			
腎・泌尿器・男性生殖器に障害をもつ成人の看護	11	1. 主な症状と看護 2. 検査・処置・治療時の看護		講義 演習	佐藤
	12	3. 腎疾患の看護 1) IgA腎症患者、ネフローゼ症候群患者、腎硬化症患者			
	13	2) 腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 3) 急性腎不全・慢性腎不全 4) 透析療法を受ける患者			
	14	4. 膀胱の手術、前立腺手術、前立腺手術と看護			
評価	25分	筆記試験 25点			
テキスト等 金田 哲他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学5 消化器, 医学書院 黒江ゆり子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学6 内分泌・代謝, 医学書院 阿部信一他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 成人看護学8 腎・泌尿器, 医学書院					

授業科目	成人看護学方法論V	講師名	境 敏一	単位 1単位	時期 2年次前期
				時間 30時間	
科目目標 1. 事例を通して、成人期にある対象の看護の展開方法を理解する。 2. 事例を通して、個別性を踏まえた成人期にある対象の看護が理解できる。					
単元	回数	授業内容			方法
慢性疾患をもつ 成人の看護の展 開	1	授業目標、授業の進め方 復習と確認 判断の根拠とは？ 事例紹介			講義
	2	基本情報、検査値、関連図、経過表			講義 演習
	3	情報分類、分析・解釈、成文化			講義 演習
	4				
	5				
	6	問題の明確化、問題リスト・優先順位の決定 看護計画立案			演習 演習
	7	看護計画の発表と意見交換			ディスカッション
	8	*学生主体で進行			
急性期にある成 人の看護の展開	9	事例紹介			講義 演習
	10	周手術期の看護の展開1			
	11	周手術期の看護の展開2			
	12	周手術期の看護の展開3			
	13	周手術期の看護の展開4			
	14	看護計画の実践			実践演習
	15	看護記録の記載と計画内容の評価修正 サマリー記録			
評価		慢性疾患事例:ワーク前後の個人学習・課題提出状 況、を総合して50% 急性期事例:個人学習状況、途中課題提出状況、最終 課題提出を総合して50% 合計100点			
参考資料 ・石川ふみよ:看護過程の解体新書, 学研メディカル秀潤社. ・山口瑞穂子他:経過がみえる疾患別病態関連図マップ, 学研メディカル秀潤社. ・山口瑞穂子他:経過別看護過程の展開, 学研メディカル秀潤社.					
適宜資料配布					

## 2) 老年看護学

## 老年看護学構築の考え方

加齢による生理的機能の変化は外見だけでなく機能的変化となって現れ、健康や生活に影響を与える。さらに、老いの自覚として精神的・心理的变化にも影響を与える。社会的には、退職することで地位や役割を失い、友人や伴侶との別れなどから生きがいへの喪失感を持ちやすい。しかし、これらの変化には個人差があり個々の対応が必要である。そこで老年看護学は、老年期にある人を統合的に理解し、老年期の特徴をふまえ、老年期にある人とその家族に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけることを目的とした。

老年看護学概論では、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と高齢者の保健医療福祉の実際と高齢者の人権と倫理について学ぶ。

老年看護学方法論Ⅰでは、高齢者に起りやすい健康障害の特徴と高齢者に必要なリハビリテーションの意義と援助方法を学ぶ。

老年看護学方法論Ⅱでは、高齢者の特徴を踏まえ身体状況把握の仕方、高齢者の日常生活行動の援助技術を学ぶとともに生活支援の方法を学ぶ。また、終末期看護を通して死生観を深める。

老年看護学方法論Ⅲでは、健康に障害のある症状とその看護と高齢者の発達課題を踏まえた健康障害のある看護過程演習を通して臨地実習老年看護学の基礎とする。

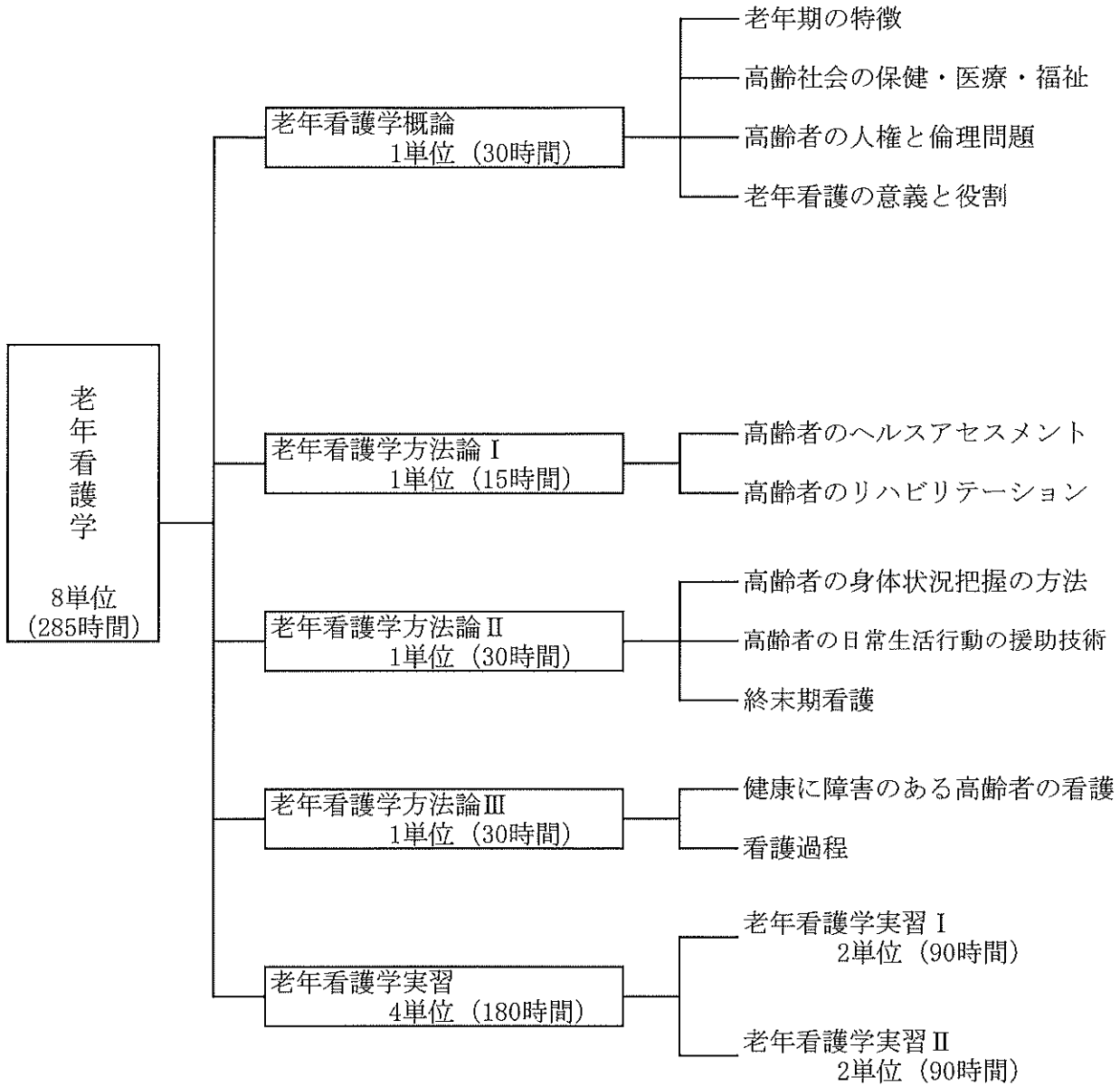
### 老年看護学の目的

老年期にある人を統合的に理解し、老年期の特徴をふまえ、老年期にある人とその家族に応じた看護を実践するための基本的能力を身につける。

### 老年看護学の目標

- ① 加齢による身体の変化や精神的社会的喪失感をふまえ、老年期にある人々の特徴を理解する。
- ② 老年期にある人々のライフスタイルをふまえ、援助の必要性を理解し、基本的な援助技術を身につける。
- ③ 老年期にある人々とその家族を取り巻く社会の動きを把握し、保健・医療・福祉活動の必要性と看護の役割を理解する。
- ④ 老年期にある人々の特徴をふまえ、加齢による変化や健康状態に応じて、家族も含めた看護が実践できる。
- ⑤ 保健・医療・福祉チームの一員として老年看護の役割・責任を理解し協働できる。

(2) 老年看護学構成と科目のねらい





授業科目	老年看護学概論	講師名	柿沼 伸枝	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標	1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 超高齢社会の現状を理解する。 3. 老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉対策を理解する。 4. 老年看護を学ぶ意義と役割を理解する。					
単元	回数	授業内容			方法	
老年期の特徴	1	1. 高齢者（老年期）とは何か 1) 老いるということとは 2) ライフステージとしての老年期 3) 老化と加齢 4) 高齢者の構造的・機能的な身体的特徴 5) 高齢期の発達課題と精神的特徴 6) 高齢者の社会的側面の変化			講義	
	2	2. 高齢者疑似体験			講義	
	3	3. 課題まとめ			演習	
保健・医療・福祉	4	4. 高齢社会の保健・医療・福祉			講義	
	5	1) わが国の人口高齢化の特徴とその影響			個人ワーク・	
	6	2) 統計的輪郭			個人発表	
	7	3) 超高齢社会の現状と課題				
	8	4) 老年保健・医療・福祉の動向 5) ソーシャルサポートシステム				
高齢者の人権と倫理	9	5. 高齢者の人権と倫理問題			講義	
	10	1) 高齢者の差別			グループワーク	
		2) 高齢者の虐待 3) 高齢者の身体拘束				
老年看護の意義と役割	11	6. 老年看護の理念、目標、原則			講義	
		1) 老年看護の理念				
		2) 老年看護の目標				
		3) 老年看護の原則				
	12	4) 老年看護の機能と役割				
13	7. 高齢者と家族					
14	1) 家族形態と社会的 2) 家族への援助					
評価	15 (60分)	筆記試験 100%				
テキスト等 北川公子著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2021. 佐々木英忠著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論，医学書院，2021. 山田律子著：生活機能からみた老年看護過程+病態，生活機能関連図 第3版，医学書院，2021. 国民衛生の動向 いとう総研編：社会保障制度指さしガイド，2021.						

授業科目	老年看護学方法論Ⅰ	講師名	柿沼伸枝	単位 時間	1 単位 15 時間	時期 2 年次前期
科目目標 1. 高齢者に起りやすい健康障害の特徴を理解する。 2. 高齢者にとってのリハビリテーションの意義が理解できる。						
単元	回数	授業内容			方法	
高齢者のヘルスアセスメント	1	1. ヘルスアセスメント 1)身体的健康のアセスメント 2)生活の自立状態のアセスメント 3)心理・社会的健康のアセスメント 4)環境のアセスメント 5)生活史のアセスメント 2. 認知・知覚機能の老化とアセスメント 1)脳の老化 2)感覚機能の老化			講義 グループワーク	
	2	2. 呼吸・循環機能の老化とアセスメント 1)呼吸機能の老化 2)循環機能の老化 3. 消化器			講義 グループワーク	
	3	4. 代謝・排泄機能の老化とアセスメント 1)肝機能の老化 2)腎機能の老化 3)高齢者の薬物代謝 4)高齢者の水代謝 5)高齢者の電解質代謝			講義 グループワーク	
	4	5. 免疫機能の老化 6. 運動機能の老化 1)高齢者の運動量 2)骨代謝機能の老化 3)ロコモティブシンドローム 4)サルコペニア 7. 性機能の老化 8. 皮膚・視聴覚・平衡覚			講義 グループワーク	
	5	9. 老年症候群 1)意識障害 2)せん妄 3)熱中症 4)脱水症 5)発熱 10. 慢性疾患に付随する症候 1)腰背部痛・るい瘦・痺れ・浮腫・睡眠障害・抑うつ 11. ADL 低下に合併する症候 1)廃用症候群 2)転倒・骨折・入浴事故 3)排尿障害・便秘・嚥下障害			講義 グループワーク	
高齢者のリハビリテーション	6 7	10. 腰痛症と四肢関節痛のリハビリテーション 11. 寝たきり高齢者のリハビリテーション 12. 介護予防のリハビリテーション 13. 認知症短期集中リハビリテーション 14. 福祉支援機器・システム			講義 視聴覚教材	
評価	8 (60分)	筆記試験				
テキスト等 鳥羽研二著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護・病態・疾患論, 医学書院, 2021. 亀井智子著:根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版, 医学書院, 2021. 参考文献 山田律子著:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版, 医学書院, 2021. 真田浩美著:老年看護学技術 第2版, 南江堂, 2021.						

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	柿沼伸枝	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の身体状況を把握する方法を学ぶ。</li> <li>2. 高齢者の日常生活行動の援助技術が理解できる。</li> <li>3. 終末期における高齢者とその家族の看護の必要性が理解できる。</li> </ol>						
単元	回数	授業内容			方法	
高齢者の身体状況把握の方法	1	1. 問診			講義 グループワーク 演習	
	2	2. 視診				
		3. 触診				
		4. 打診				
	3	5. 聴診				
		6. 血圧測定				
	4	7. 画像検査				
	5	8. 心電図				
	6	9. 検査				
		10. 在宅でのフィジカルアセスメント				
高齢者の日常生活行動の援助技術	7	1. コミュニケーション技術・回想法			講義 グループワーク	
	8	2. 感染防止・安全な環境の援助				
	9	3. 摂食・嚥下訓練・口腔ケア・義歯の装着				
	10	4. 安全な入浴介助・機械浴の介助				
	11					
終末期の看護	12	1. 終末期の看護			講義 演習	
	13	2. 死生観				
高齢者と医療安全	14	1. 高齢者と医療事故			講義 演習	
		2. 高齢者と災害看護				
評価	15 (60分)	筆記試験				
テキスト等 佐々木英忠著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院，2021. 亀井智子著：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版，医学書院，2021. 参考文献 山田律子著：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版，医学書院，2021. 真田弘美著：老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 第2版，南江堂，2021.						

授業科目	老年看護学 方法論Ⅲ	講師名	柿沼伸枝 石下紘士 長谷川友子 金澤清美 大谷真理 松本麻希子	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
科目目標	1. 高齢者にみられる疾患の特徴を理解する。 2. 高齢者に見られる疾患の治療とその看護を理解する。				
単元	回数	授業内容		方法	担当
健康障害 のある高 齢者の看 護	1	1. 認知症の看護		講義	石下
	2	2. 健康障害のある高齢者への看護			
	3	1)脳血管障害			
	4	(1)脳梗塞・脳出血・パーキンソン病			
	5	2)循環器疾患の看護			
	6	(1)心不全			
	7	3)呼吸器疾患の看護		講義	大谷
	8	(1)誤嚥性肺炎・結核・肺癌・ 閉塞性肺疾患			
	9	4)皮膚疾患の看護			
	10	(1)褥瘡・疥癬			
評価	60分	筆記試験 80%： 石下 50 点、金澤 10 点、大谷 10 点、大森 10 点			
看護過程	11	1. 老年期に見られる疾患に対する看護過程		講義・ 個人ワーク GW	柿沼 (20 点)
	12	の展開			
	13	2. 個人ワーク			
	14	3. まとめ			
	15	4. 発表			
評価		柿沼 (個人ワーク・グループワーク評価) : 20% (20 点)			
テキスト等 北川公子著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2021。 佐々木英忠著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ，老年看護 病態・疾病論 医学書院，2021。 参考図書等 山田律子著：生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版，医学書院，2021。 亀井智子著：生活機能から見た老年看護技術 第2版，医学書院，2021。 真田弘美著：老年看護学技術，最後までその人らしく生きることを支援する 第2版，南江堂，2021。 堀内ふき他：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害，MCメディカ，2021。 正木治恵他：看護学テキスト 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは，南江堂，2021。 工藤綾子他：エビデンスの基づく老年看護ケア関連図，中央法規，2021。					

4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

## (3) 小児看護学

## 小児看護学構築の考え方

少子高齢社会を向かえ、子どもたちが健やかに成長できる社会作りに取り組まれている近年、疾患を持った子どもとその家族が、望ましい環境の中で、生命の尊厳と子どもの人権を守り、治療を受けられるように小児医療の充実を図っていくことが望まれている。そして、小児を対象として看護する場合は、小児期はめまぐるしい成長・発達の段階であり、その段階を把握し、成長発達を促す援助をすることも重要である。

現代の学生は、同胞がいなかったり、同年齢との関わりがあっても異年齢や子どもとの接触体験の少ないことが考えられる。これは小児看護を学ぶにあたり、小児看護の対象である子どもの理解が困難な要因の一つになり、また子どもに対する苦手意識にもつながる可能性もある。

これらの視点に立ち、健康な小児をまず理解し、健康障害をもった小児の理解、看護へと続くように小児看護学を構築した。

小児看護学概論では、小児看護の対象である子どもの成長発達段階をとらえ、小児医療・小児保健・小児看護の変遷および、子どもの権利、生命の尊厳、倫理的配慮についての理解を深められるようにした。

小児看護学方法論Ⅰでは、子どもの成長・発達段階や子どもを取り巻く環境から現在の子どもの取り巻く社会問題についての理解を深め、看護師としてどのように子どもに関わる必要があるかを学んで行く。また、看護だけでなく保育的視点も取り入れることで、それぞれの発達段階に応じた援助を理解し、子どもに合わせた日常生活援助の方法について演習を通して深化させていく。

小児看護学方法論Ⅱでは、健康を障害された子どもとその家族の反応と看護について学び、治療・検査の援助については演習を行う。

小児看護学方法論Ⅲでは、疾患をもった子どもとその家族の看護について学び、小児期の特徴をとらえた看護過程についても理解を深めることをねらいとしている。

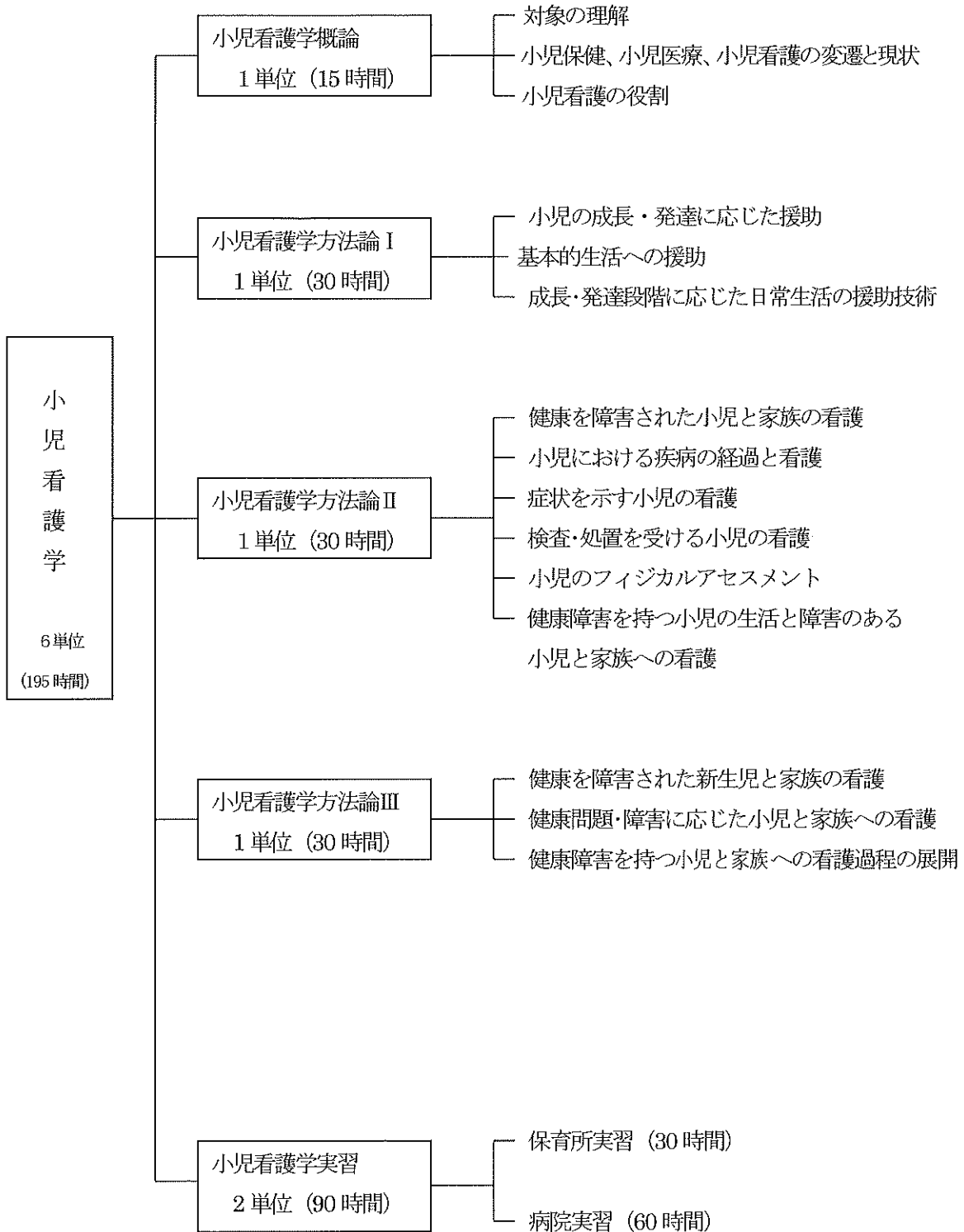
### 小児看護学の目的

小児を1人の人間として尊重し、身体的、精神的、社会的側面を総合的に理解し、小児とその家族を取り巻く人々に対して、成長発達の促進、健康保持・増進、疾病予防および健康の回復に必要な援助を行うための看護実践能力を養う。

### 小児看護学の目標

1. 小児期の成長発達段階及び発達課題について理解できる。
2. 小児を1人の人間として尊重し、倫理的配慮を行うための具体的行動が分かる。
3. 疾患を持った小児の看護方法について理解できる。
4. 小児看護に必要な基礎的看護技術が習得できる。
5. 小児の特性をとらえた、看護過程の展開を理解できる。
6. 小児を取り巻く社会状況と、チーム医療の中での小児看護の役割が理解できる。

## 小児看護学の構成と科目のねらい



授業科目	小児看護学概論	講師名	福岡真利奈	単位 1 単位	時期
				時間 15 時間	
<p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象が理解できる。</li> <li>2. 小児保健と看護の動向、小児医療・小児看護の変遷を学び、子どもの権利、倫理、生命の尊厳について理解を深める。</li> <li>3. 小児看護の役割について理解できる。</li> <li>4. 小児期の成長・発達の原因が理解できる。</li> <li>5. 小児の各発達段階における成長・発達と日常生活支援の方法が理解できる。</li> </ol>					
単元	回数	授業内容			方法
1. 小児看護学とは	1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期、小児看護の対象、小児の特性とは</li> <li>2. 子どもと家族、社会</li> <li>3. 小児看護の目的・目標</li> <li>4. 小児看護の役割</li> <li>5. 小児看護の諸統計               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人口構造</li> <li>2) 出生数と合計特殊出生率</li> <li>3) 子どもの死亡</li> </ol> </li> <li>6. 小児看護の変遷               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児医療・小児看護の変遷</li> <li>2) 児童観・育児観の変遷</li> </ol> </li> <li>7. 小児と家族を取り巻く社会</li> </ol>			講義、 グループワーク
2. 小児看護の歴史と意義					
3. 成長・発達	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成長・発達の原則と評価</li> <li>2). 成長・発達のアセスメント                   <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康診査</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>			講義、 グループワーク
4. 小児各期の成長・発達及び日常生活支援の方法	3 4 5 6 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の成長・発達と日常生活支援               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児期 2) 乳児期 3) 幼児期 4) 学童期</li> <li>5) 思春期</li> </ol>               各グループで新生児～幼児期の子どもの事例を作成し、これから習得していく日常生活を考え、支援するための援助と発達を促す玩具を作成し、プレゼンテーションを行う。                ※発表に必要な学習内容についての入力フォーマットは、事前に各グループリーダーへ AirDrop で配付する。グループ内で共有し内容を確認した上で授業に臨む。             </li> </ol>			講義、 グループワーク、 ビデオ視聴、 発表
5. 子どもの権利		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護における倫理               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの権利</li> <li>2) 小児医療と子どもの権利</li> <li>3) 小児看護と倫理的配慮</li> <li>4) 子どもの虐待</li> </ol> </li> </ol>			
評価	(90分)	筆記試験(60%) 授業・グループワークの参加状況、課題等の提出状況(40%)			
テキスト	小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ, 医学書院,				
参考図書	ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護, メディカ出版 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会著 第6版 乳幼児健診マニュアル, 医学書院				



授業科目	小児看護学方法論 I	単位 1 単位 時間 30 時間	担当講師	福岡真利奈 兵頭理枝子	時期 2 年次前期
科目目標 1. 小児の成長・発達の特徴と発達段階に見られる健康及び社会問題を理解する。 2. 小児の発達段階に応じた日常生活援助(養育)を理解する。					
単元	回数	授業内容	方法	担当	
1. 小児看護における概念と理論	1	1. 小児看護における概念と理論 1)ボウルビィ、ピアジェ、エリクソン他 2)情緒と社会性の発達に向けての援助	講義	福岡	
2. 発達段階に特有な健康問題	2 3 4 5 6 7 8 9	1. 幼児期、学童期、思春期の健康及び社会問題 ※発表に必要な学習内容についての入力フォーマットは、事前に各グループリーダーへ AirDrop で配付する。グループ内で共有し内容を確認した上で授業に臨む。 1) 食生活と食育、肥満、生活習慣病 2) 学習と学習問題及び学習支援 3) 性意識の変化、異性への関心、逸脱行為 4) 心理的性差の不一致、性の多様性、LGBTs 5) 飲酒・喫煙、薬物乱用など社会的逸脱行為 6)不登校、引きこもり、自傷行為 7)いじめ、暴力行為 8)虐待としつけ、機能不全家族 9)0 ヶ月事例、ワンオペ育児、1～9)について、各グループで統計や発達段階を踏まえた上で各発達段階における社会問題についてまとめ発表を行う。	講義 グループワーク、 発表		
3. 小児に起こりやすい事故と事故防止	10 11	1. 小児に起こりやすい事故と事故防止 1)各発達段階に多い事故と事故防止 2)医療現場での事故と事故防止	講義		
5. 発達段階に応じた援助技術	12 13	乳幼児の清拭、寝衣交換、オムツ交換	演習		
4. 発達段階に応じた日常生活の援助方法(養育)	14	1. 基本的な生活習慣の獲得に向けた関わり 2. 社会的な生活習慣・対人関係能力の獲得に向けた関わり	講義	雀宮保育園 ステラ兵頭 園長	
評価	(90分)	筆記試験(60%) 演習(事前学習、演習、振り返り)、グループ学習状況、発表等(40%)			
テキスト	系統看護学講座 専門 22 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論,医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた小児看護技術,医学書院, ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護, メディカ出版				

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	福岡真利奈	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 1. 病気や障害が小児と家族に与える影響と看護について理解する。 2. 病気や障害を持つ子どもと家族への看護について理解する。 3. 治療処置を受ける小児に対して、倫理的配慮と安全・安楽に実施できる援助方法を理解する。						
単元	回数	授業内容		方法		担当
健康障害を持つ子どもと家族への看護	1	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 小児の健康問題と看護 2. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 外来における子どもと家族の看護 子どもの外来での問診票を確認し、追加で問診する内容と観察ポイントについて考える。		講義 ビデオ視聴 グループワーク 発表		福岡
	2	1. 小児の状況(環境)に特徴づけられる看護				
	3	1) 入院中の小児と家族の看護				
	4	2. 症状を示す子どもの看護とアセスメント ※AirDrop で電子カルテ、レントゲン写真、紹介状を配付				
	5	1. 小児における疾病の経過と看護				
	6	疾病の経過や病院以外の場での子どもの事例を各グループで設定し、それに必要な看護のプレゼンテーションを行う				
	7					
	8	※発表に必要な学習内容についての入力フォーマットは				
	9	AirDrop で配付する 1) 慢性期 2) 急性期 3) 周手術期 4) 終末期 5) 在宅療養中 6) 災害時				
健康障害を持つ子どもと家族への看護技術	10	1. 小児のアセスメント		演習		
	11	1) VS測定の方法				
	12	2. 症状を示す小児の看護				
	13	3. 治療・処置・検査の実際と看護技術 1) 注射・採血時の介助法(固定・抑制) 2) 輸液管理 3) 採尿パック貼付 4) 与薬法 5) 腰椎穿刺・骨髄穿刺				
	14	1. 障害のある小児と家族の看護				
評価	(90分)	筆記試験(60%) 演習(事前学習、演習、振り返り)、グループ学習状況、発表等(40%)				
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院 新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論、小児保健, メヂカルフレンド社					
参考図書	根拠と事故防止からみた小児看護技術, 医学書院、 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護, メディカ出版、 こどもの病気の地図帳, 講談社 ひよこクラブなど					

授業科目	小児看護学方法論Ⅲ	講師名	木村恵利子 福岡真利奈		単位	1 単位	時期
					時間	30 時間	
科目目標 1. 健康障害の経過に応じた看護ができる。 2. 健康障害をもつ小児と家族に対して、個別性を考えた看護計画の展開ができる。							
単元	回数	授業内容			方法	担当	
1. 健康を障害された新生児と家族の看護	1	1. 健康を障害された新生児と家族の看護			講義	木村	
	2	1) ダウン症候群のある子どもと家族の看護 2) NICU で治療が必要な子どもと家族の看護					
2. 健康障害を持つ子どもと家族への看護	4	1. 疾患や障害を持つ子どもと家族に合わせた看護			講義 グループワーク 演習		
		1) 乳幼児下痢症の子どもと家族の看護					
		2) 熱性痙攣を起こした子どもと家族の看護					
	5	3) 成長ホルモン分泌不全低身長の子どもの看護					
		4) 感染症を持つ子どもと家族の看護					
		5) 看護先天性股関節脱臼の子どもの看護					
	6	6) I 型糖尿病の子どもの看護					
	7	7) 川崎病の子どもの看護					
	8	8) ネフローゼ症候群の子どもの看護					
	9	9) 気管支喘息の子どもの看護					
10	10) 白血病の子どもの看護						
		3. 救命救急が必要な小児と家族の看護			講義 演習		
		1) 事故・外傷 2) 救命救急の技術					
評価	(90分)	筆記試験(80%)					
3. 看護過程の展開	11	1.看護過程の展開(肺炎)			講義 グループワーク	福岡	
	12	ビジョンとゴール、関連図、受け持ち初日の行動計画書をグループ					
	13	ワークで作成し、提出する					
	14	※AirDrop で受け持ち患児の電子カルテを配付する					
	15						
評価		20% (看護過程の個人ワーク・グループワーク評価)					
テキスト	系統看護学講座 専門 22 小児看護学[1] 小児看護学総論 小児臨床看護総論,医学書院 系統看護学講座 専門 23 小児臨床看護各論 小児看護学[2]						
参考図書	医歯薬出版株式会社 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護, メディカ出版、 こどもの病気の地図帳,講談社						

4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

## (4) 母性看護学

## 母性看護学構築の考え方

母性看護は、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。この母性看護の領域は、次世代の健全育成のための妊産褥婦及び新生児の看護活動という、人類普遍の願いを担う分野に加え、社会の変容、医学の進歩・発展、母子をめぐる生活環境の変化など女性役割や価値観の多様化に対応する分野に拡大されて考えられている。

そのため、看護の対象を以下の3つの側面から理解し、その各側面について対象を取り巻く施策や法律、母子保健組織についても学び、看護とともに、保健・医療・福祉チームの一員として、社会資源との連携もできるように学習する必要がある。

対象を理解する3つの側面の1つは、卵巣機能から見た各ライフステージにおける理解である。特に種族維持に関わる生殖期すなわち女性の成熟期を中心にその周辺の思春期、更年期の理解は重要である。2つめは、生殖過程には両性が関与することから、「母性」とともに「父性」についての理解が深まるように、「家族中心的な視点」からの理解である。3つめは社会の状況と「母性」が密接に関わっていることから、医学の進歩も含めた社会の動向による生命観や倫理観、女性役割や価値観の多様化を踏まえた理解である。

学習者自身は、殆どが「次世代の健全育成」を担う世代である。このことから、健全な青年期を土台として自分自身の発達課題の認識を深めることが、対象の理解や問題点についての学びをより深めることにつながり、更に生命を尊重し倫理に基づいた母性看護の実践のための学習の必要性を理解することにつながることを期待できる。

以上の母性看護の意義と役割、母性看護の対象の理解、学生の状況とをふまえて、母性看護学の学習過程を以下のように考えた。

母性看護学概論Ⅰでは、母性看護の概念と意義から、生命の尊重を基盤とした母性看護の役割について学習し、看護実践のためにリプロダクティブ・ヘルス/ライツを含めた対象理解や社会の状況・動向の理解が必要であることを学習する。

母性看護学概論Ⅱでは、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護を基盤として、倫理に基づく個別性の高い看護実践のために、産むことの自己決定権とともに、母性看護における生命倫理の問題を学習する。その他、各ライフステージの機能と健康について、次世代の母性役割遂行のため、対象の健康レベルに応じた健康教育や援助について理解し、母性の健康上のニーズと必要な援助について学習する。

母性看護学方法論Ⅰでは、母性のライフステージ各期を通して女性の特徴と健康問題の関係から必要な援助と看護実践について学習する。

母性看護学方法論Ⅱでは、妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心に看護の実際を、演習も交えて学ぶとともに、対象者を身体的、精神的、社会的に統合された存在として理解できるように、事例による「看護過程の展開」を学習する。

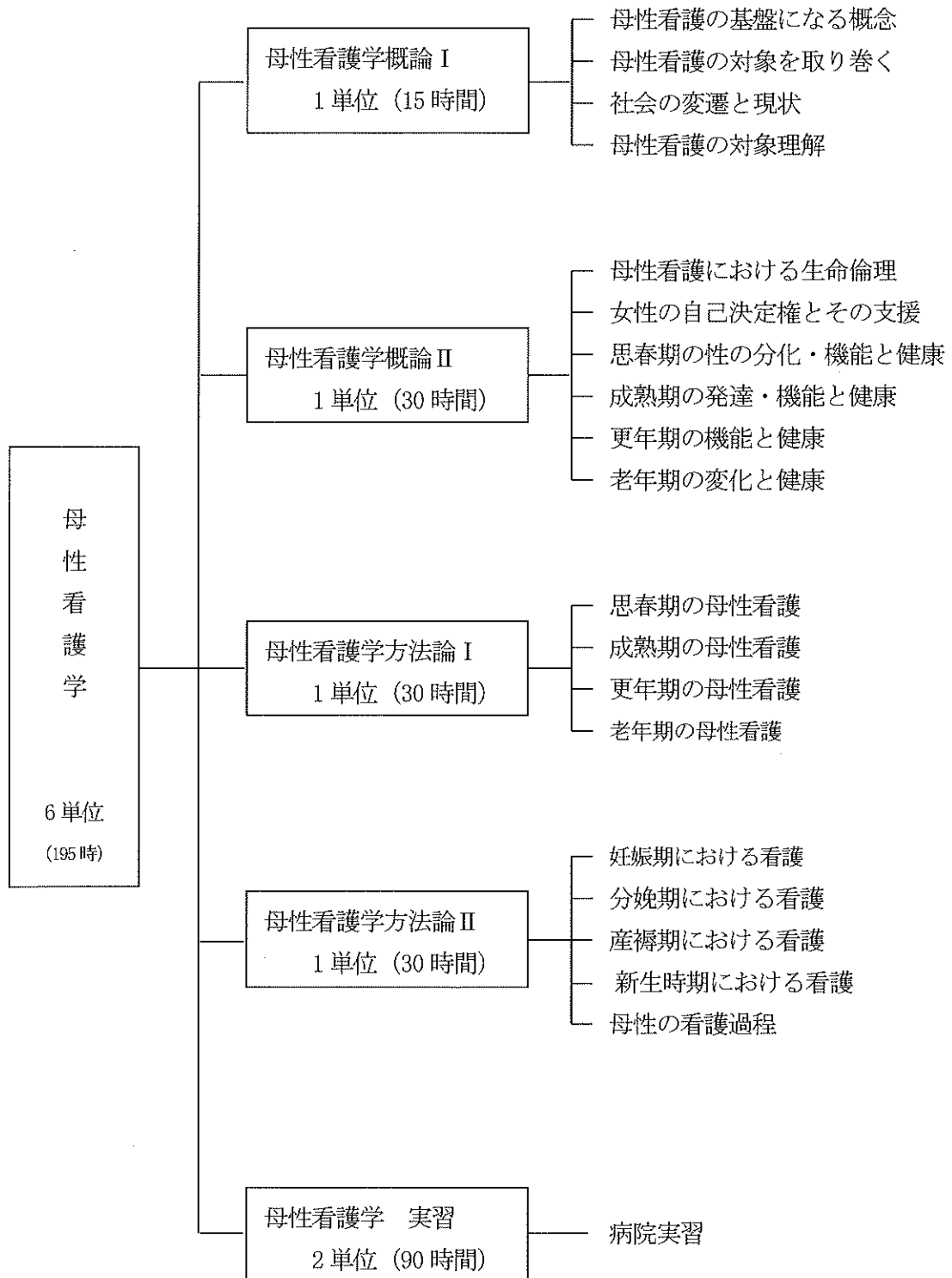
#### 母性看護学目的

思春期、成熟期、更年期、老年期各期の母性にかかわる健康の問題を身体的、精神的、社会的側面から総合的に理解し、母性及び家族の健康の増進・保持・疾病の回復に必要な援助ができる能力を養う。

#### 母性看護学目的・目標

- ① 母性の概念および特徴を理解する。
- ② 母性各期の特徴と発達課題を理解する。
- ③ 母性各期の母性の健康に影響を及ぼす因子について理解する。
- ④ 母性各期に応じた保健上の援助について学ぶ。
- ⑤ 母性看護の機能と役割を認識する。
- ⑥ 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族を対象に、次世代の健全な育成に向けて必要な援助について学ぶ。

母性看護学の構成と科目のねらい



授業科目	母性看護学概論 I	講師名	君島 清美 堀越 幸子		単位 1 単位	時期 1 年次後期
			時間 15 時間			
科目目標 1. 母性の概念を理解できる。 2. 看護の対象である母性とそれを取り巻く人々を理解できる。 3. 母性看護の意義と役割が理解できる。 4. 母性看護の対象者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 5. セクシャリティについて理解できる。 6. 母子保健に関する統計について理解できる。 7. 母性看護の歴史と発展を日本と諸外国について理解できる。						
単元	回数	授業内容			方法	担当
母性看護の 基盤となる 概念	1	A. 母性とは 1. 親になること 2. 母性の身体的特性 3. 母性の心理・社会的特性 4. 母性看護における母性 B. 母子関係と家族の発達 1. 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2. 家族の機能・発達課題			講義	君島
	2	C. セクシュアリティの概念と人間の性と性行動 1. セクシュアリティ(人間の性) 2. セクシュアリティの発達と課題 D. リプロダクティブヘルス/ライツ 1・リプロダクティブヘルス/ライツとは 2. 女性のリプロダクティブヘルス/ライツの課題 E. ヘルスプロモーション 1. ヘルスプロモーションとは 2. 女性の生涯にわたる健康教育 3. ヘルスプロモーションにおける協働				
	3	F. 母性看護のあり方 1. 母性看護の概念 2. 母性看護の課題と展望 G. 母性看護における倫理 1. 生命倫理と看護倫理 2. 看護における倫理的意思決定 H. 母性看護における安全・事故防止				
母性看護の 対象を取り巻く 社会の変遷と 現状	4	A. 母性看護の歴史的変遷と現状 1. 母性看護の変遷 2. 母性保健統計からみた動向 3. 母性看護に関する組織と法律 4. 母性保健施策からみた現状 5. 母性看護の場と職種			講義	堀越
	5	B. 母性看護の対象を取り巻く環境 1. 家族 2. 地域社会 3. 生物学的環境 4. 社会文化的環境				
母性看護の 対象理解	6	A. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 B. 女性・家族のライフサイクル			講義	
	7	C. 母性の発達・成熟・継承				
評価	8 (45 分)	試験 筆記試験 100%(君島:50%、堀越:50%)				
森恵美編:母性看護学1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門24、医学書院 厚生統計協会編:国民衛生の動向						



授業科目	母性看護学概論Ⅱ	講師名	井上南子	単位1単位	時期
				時間 30時間	
科目目標	1. 母性看護学における生命倫理について考えられる。 2. 女性の自己決定権とその支援のありかたについて理解できる。 3. 思春期の性の機能と健全な健康教育の必要性が理解できる。 4. 成熟期の母性の発達と健康な家庭づくりのあり方が理解できる。 5. 更年期の女性の機能と健康維持の必要性が理解できる。 6. 老年期の身体変化と健康維持の必要性が理解できる。				
単元	回数	項目			方法
母性看護学における生命倫理および女性の自己決定権とその支援のありかた	1	1. 生殖医療に対する多様な考え			講義 グループワーク
	2	2. 母性の生命倫理の諸問題 1) 人工妊娠中絶における諸問題			
	3	2) 母性における人権尊重の課題			
	4	3. インフォームドコンセント・チョイス			
思春期の性の分化・機能と健康	5	1. 性の分化・発達と月経周期			
	6	2. 性教育のあり方			
	7	3. 性教育の実態 4. 性教育の実際と課題			
	8	5. 健全な母性の健康づくり			
	9	1. 月経周期の発達と妊娠			
成熟期の発達・機能と健康	10	2. 母性意識・父性意識の行動の発達過程と形成			
	11	3. 家族の形成と援助			
	12	4. 性的健康と家族計画 5. 職業をもった女性			
更年期の機能と健康	13	1. 親役割・次世代の母親役割 2. 更年期障害の予防への援助			
老年期の変化と健康	14	1. 老年期の身体変化と性 2. 健康維持教育			
評価	15 (90分)	筆記試験 筆記試験 80%、 授業への参加・課題への取り組み等 20%			
テキスト 森恵美編:母性看護学1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門24、医学書院 厚生統計協会編:国民衛生の動向					

授業科目	母性看護学方法論 I	講師名	井上南子	単位 1 単位 時間 30 時間	時期 2 年次 前期
科目目標	1. 思春期の母性看護が理解できる。 2. 成熟期の母性看護が理解できる。 3. 更年期の母性看護が理解できる。 4. 老年期の母性看護が理解できる。				
単元	回数	項目		方法	
思春期の母性看護	1	1. 月経前症候群		講義 グループワーク	
	2	2. 月経困難症とヘルスケア			
	3	3. 10 代の人工妊娠中絶とヘルスケア			
	4	4. 10 代の性感染症とヘルスケア			
	5	5. 10 代の性のヘルスケア			
	6	6. 性暴力被害とヘルスケア			
成熟期の母性看護	7	1. 不妊とヘルスケア 2. 望まない妊娠とヘルスケア			
	8	3. 育児不安とヘルスケア 4. 虐待のヘルスケア			
更年期の母性看護	9	1. 更年期女性の不定愁訴の看護			
	10	2. 尿失禁の看護			
	11	3. 子宮癌の看護			
	12	4. 卵巣癌の看護			
老年期の母性看護	13	1. 老年期の身体的変化の看護			
	14	2. 子宮下垂・膣炎・外陰炎の看護			
評価	15 (90 分)	筆記試験 筆記試験 80%、 授業への参加・課題への取り組み等 20%			
テキスト等 森 恵美編:母性看護学 1 母性看護学概論、系統看護学講座 専門 24、医学書院 末岡 浩編:女性生殖器 系統看護学講座 専門 13、医学書院					

授業科目	母性看護学 方法論Ⅱ	講師名	矢島 悟子 行武 沙織 岡田 愛実 井上 南子		単位 1 単位	時期 2 年次		
			時間 30 時間					
科目目標 1. 正常な妊娠・分娩・産褥・および新生児の経過を理解し、看護の方法を習得する。 2. ハイリスクおよび異常な状況にある対象の経過と看護の方法を理解する。 3. 母性看護における看護の展開方法を理解する。								
単元	回数	項目			方法	担当		
妊娠期の経過 と看護	1	1. 正常な妊娠期の経過と看護 1) 妊娠期にある対象の身体的・心理的・社会的特性			講義・演習・グループワーク	矢島		
	2	2) 母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 妊娠の経過と健康管理						
	3	2. ハイリスク妊娠と看護 1) ハイリスク妊娠の病態生理・検査・治療 2) ハイリスク妊娠の看護						
分娩期の経過 と看護	4	1. 正常な分娩期の経過と看護 1) 分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的特性						
	5	2) 分娩期にある母体および胎児の健康状態のアセスメント 3) 分娩の経過と看護						
	6	2. 異常な分娩期の経過と看護 1) 分娩異常の病態生理・検査・治療 2) 異常な分娩期にある産婦への看護						
産褥期の経過 と看護	7	1. 正常な産褥期の経過と看護 1) 産褥期にある対象の身体的・心理的・社会的特性			講義・演習	榊原		
	8	2) 褥婦の健康状態のアセスメント 3) 産褥の経過と看護						
	9	2. 異常な産褥期の経過と看護 1) 異常な産褥経過の病態生理・検査・治療 2) 異常な産褥経過にある褥婦への看護						
新生児の経過 と看護	10	1. 正常な新生児の経過と看護 1) 新生児の生理						
	11	2) 新生児の健康状態のアセスメント 3) 新生児期の経過と看護						
	12	2. 新生児の異常と看護 1) 異常な経過にある新生児の病態生理・検査・治療 2) 異常な経過にある新生児への看護						
看護過程演習 (産褥期)	13	正常な経過をたどる褥婦の看護過程 (異常な経過をたどる褥婦の看護過程)			講義・演習・グループワーク	井上		
	14							
	15							
評価	16	筆記試験:60%(矢島:30%、大山:30%) (45 分) 看護過程(グループワーク参加状況・課題への取り組み状況:40%)						
テキスト等 森 恵美編:系統看護学講座,専門分野Ⅱ,母性看護学各論,母性看護学②,医学書院,								

4.専門分野Ⅱ－3) 教授内容

## (5) 精神看護学

## 精神看護学構築の考え方

21世紀は「こころの時代」と言われている。社会構造が複雑になり、その歪みとしての心の問題が多くなり、誰もが精神の危機状況に陥る可能性があると言われている。

精神看護の対象は、精神障害の有無にかかわらず全ての人を対象とし、さらに精神に障害を持ち医療施設に通院または入院加療している人だけではなく、障害をもち地域社会で生活をしている人も対象としている。

精神看護学では、人間理解を基盤として、生命の尊厳や人権尊重など倫理的判断や態度を習得する。また、各ライフステージを人のこころの発達からとらえ、精神を病む人々やその家族、また地域社会を含めた全ての人を対象に「こころの健康」を考える。そして、こころの健康の維持・増進の方法について学習する。精神看護は、特に個別看護の必要性が高く、個々に対応するための基本的知識と技術を習得する。また、精神医療・看護に関わる社会問題をとらえながら今後の課題についても考えられるように構築した。

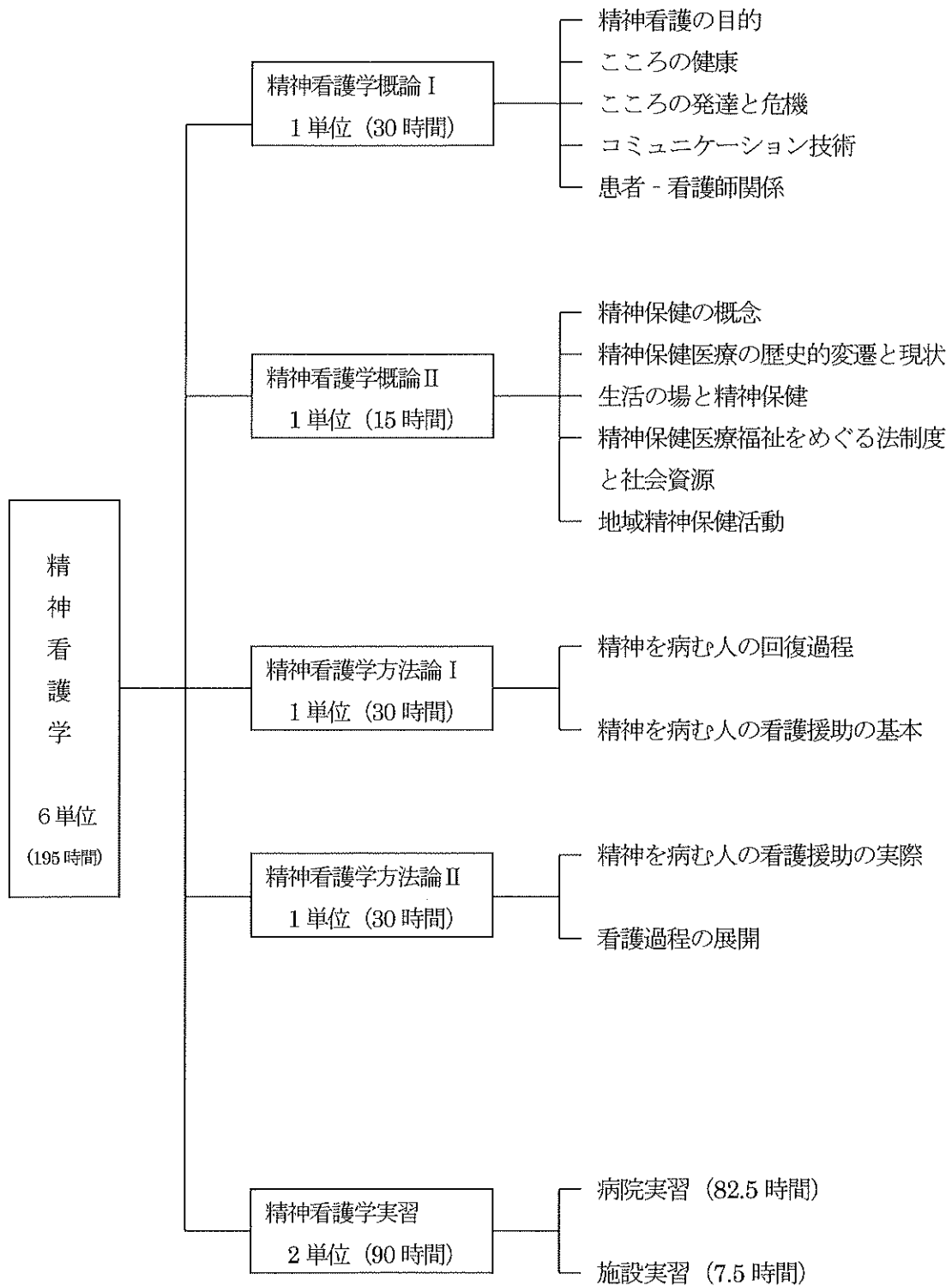
精神看護概論Ⅰでは、こころの健康、ライフサイクル各期におけるこころの発達と危機状況について理解を深める。また、精神看護の機能と役割では、対象との治療的対人関係の成立、効果的なコミュニケーション技法など、あらゆる看護の基盤となる知識や技術、高度で広範な専門性が求められることを理解する。また、看護師の倫理、人権とノーマライゼーションについても深く考えられるようにする。

精神看護概論Ⅱでは、精神保健医療の歴史的変遷を概観し、精神保健の基本的概念、今後の精神医療のあり方について考える。また、環境がこころの健康に与える影響を、家庭・学校・職場・地域の社会生活の各場面から理解する。法制度と社会資源の活用については、保健・医療・福祉の統合という視点に立って広く理解する。

精神看護方法論Ⅰでは、精神を病む人がその回復過程において抱える問題と、回復を助け解決するための看護援助の基本について学ぶ。

精神看護方法論Ⅱでは、精神を病むことがその人の日常に与える影響に視点を置いて理解し、生活を整えるための看護の援助の実際について理解する。また学んだ知識を統合して事例を基にその人にとって必要な看護を考える。精神看護学実習では、学んだことを生かし、実際に精神に障害をもつ対象と関わり、対象を理解し対象のセルフケアの発揮に向けた援助を実践することとした。

精神看護学の構成と科目のねらい



授業科目	精神看護学概論Ⅰ	講師名	山根 美智子	単位 1 単位	時期 2年次前期
			鈴木 弘子	時間 30 時間	
科目目標	1. 精神看護の基本的概念が理解できる。 2. 精神の健康を支えるために必要な基礎知識が理解できる。 3. 精神の健康を支えるために必要な対人関係と、関わりの基本が理解できる。				
単元	回数	授業内容	方法	担当	
精神看護の概念	1	1. 精神看護学の目的と科目の構造 2. 精神看護の対象とチーム 3. 心の健康とは	講義	山根	
心の健康	2	1. 心の構造と心の機能 2. 防衛機制	講義 グループワーク		
心の発達と発達危機	3 4	1. 心の発達と発達危機の看護	講義 グループワーク		
現代社会のストレスとストレス解消法	5 6	1. 現代社会と心の健康 2. ストレスとストレスコーピング 3. 危機における看護介入	講義 グループワーク		
関係の中の人間	7	1. 家族と心の健康	講義 グループワーク		
精神の健康を支えるための対人関係	8 9 10 11 12	1. 傾聴とは、受容するとは、共感するとは。 2. 非言語的コミュニケーション 3. 精神障害者とのコミュニケーション 4. ペプロウの看護理論で考える 患者-看護師関係	講義・演習 ロールプレイ	鈴木	
リエゾン精神看護	13	1. リエゾン精神医学と リエゾン精神看護の役割	講義		
看護師のメンタルヘルス	14	1. 感情労働としての看護	講義		
評価	15 (90分)	筆記試験(山根 50 点、鈴木 50 点) 出席状況、グループワーク参加状況、課題レポートを参考にする。			
テキスト等	武井麻子他:系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎, 第4版, 医学書院, 武井麻子他:系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開, 第4版, 医学書院,				

授業科目	精神看護学概論Ⅱ	講師名	稲見 聡	単位 1 単位	時期	
				時間 15 時間		2 年次前期
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の基本的概念を理解できる。</li> <li>2. 生活の場における精神の健康問題を理解できる。</li> <li>3. 精神保健医療福祉の変遷と現状を知り、法制度と社会資源について理解できる。</li> </ol>						
単元	回数	授業内容			方法	担当
精神保健の概念	1	1.精神保健の基本的概念 1)精神保健の概念 2)精神保健福祉の今後の対策			講義	稲見
精神保健医療の歴史的変遷と現状	2	1. 精神保健医療の歴史的変遷と現状				
生活の場と精神保健	3	1. 家庭と精神保健 2. 学校と精神保健				
	4	3. 職場と精神保健 4. 生活施設において把握される精神保健				
精神保健医療福祉をめぐる法制度と社会資源	5	1. 精神保健福祉法 2. 障害者総合支援法				
	6	3. 社会復帰施設の概要と活動 4. サービス提供のしくみ				
地域精神保健活動	7	1.精神障害者のリハビリテーション 2. 地域精神保健活動				
評価	8 (45分)、	筆記試験(100点) 筆記試験 100%				
テキスト等 武井麻子他:系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎, 第4版, 医学書院, 武井麻子他:系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開, 第4版, 医学書院,						



授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	講師名	中村 陽平	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神を病む人の回復過程が理解できる。</li> <li>2. 精神を病む人の看護援助の基本が理解できる。</li> </ol>						
単元	回数	授業内容			方法	担当
精神を病む人の 回復過程	1	1.精神に障がいをもつ人の理解			講義 グループ	中村
	2	1.様々な健康障がいをもつ人の理解とその看護			ワーク	
精神を病む人の 看護援助の実践	3	不安 不眠 躁 抑うつ状態 怒り・拒否			演習	
	4	幻覚・妄想状態 強迫行為 衝動行為			DVD	
	5	ひきこもり 自傷行為・自殺 暴力				
	6	産後うつ 老年期うつ 摂食障がい				
	7	薬物療法とその看護				
	8	2.統合失調症をもつ人の理解と看護				
	9	3.気分障がいをもつ人の理解と看護				
			4.パーソナリティ障がいをもつ人の理解と看護			
			5.依存症をもつ人の理解と看護			
		10	1.行動制限を行う目的とその看護			
	11	1.自己コントロールを高めるケア			講義	
	12	認知行動療法			演習	
	13	1.精神疾患の発症から地域で暮らすまでの経過			講義	
	14					
評価	15	試験 100 点				
	(90 分)	筆記試験 100%				
テキスト等 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎，第4版，医学書院， 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開，第4版，医学書院，						

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	講師名	鈴木 弘子	単位	1 単位	時期	2 年次
				時間	30 時間		
科目目標 1. 精神を病むことによって影響された生活を整えるための看護援助の実際が理解できる。 2. リハビリテーションの考え方を理解し、精神医療における作業療法や SST の目的・意義・実際を学ぶ。 3. 精神を病む人の生活上の問題を正しく把握し、看護過程が展開できる。							
単元	回数	授業内容			方法	担当	
精神を病む人への看護援助基本	1	1. 精神看護の考え方 2. リハビリテーションの考え方 3. 精神看護に用いる看護理論 (オレムのセルフケア理論)			講義 DVD	鈴木	
	2	1. 精神に障害をもつ対象への 日常生活援助					
治療と看護	3	1. 集団療法と看護			講義 演習 グループ ワーク DVD		
	4	1) SST の理論と実際					
	5	2) 作業療法とその看護					
	6	3) レクリエーションの意義と計画					
	7						
	8	1. 精神科デイケアの意義と看護			講義		
プロセスレコード	9	1. 精神看護実践におけるプロセスレコードの意義と実際			講義 演習 グループ ワーク		
	10						
看護過程の展開	11	1. オレムのセルフケア理論を用いた看護過程の展開			講義 演習 グループ ワーク		
	12						
	13						
	14						
評価	15 (90分)	筆記試験：60 点 看護過程・プロセスレコード・演習態度・記録物：40 点 出席状況、グループワーク参加状況、課題レポートを参考にする。					
テキスト等 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎，第4版，医学書院 武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開，第4版，医学書院， 山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術							